

■ホリバタとは

青少年市民協働センター（中央公民館の1、2階）の通称。そこで取り組む事業が「青少年市民協働センター（ホリバタ）事業」です。

個人・団体・企業等と行政が協働して、ふるさと宇和島を未来につなげる、持続可能な地域社会の創り手を育成する、公民館の一事業です。
中学生～39歳の青少年（ホリバタ世代）を主な対象としています。

中央公民館が、ときに休憩場所や自習場所として、ときにイベントスペースとして等、若者の活動拠点になることを目指し、令和2年度からスタートしました。

- ①若者や市民団体の「居場所づくり・活動拠点づくり」
- ②様々なイベント企画による「きっかけづくり」

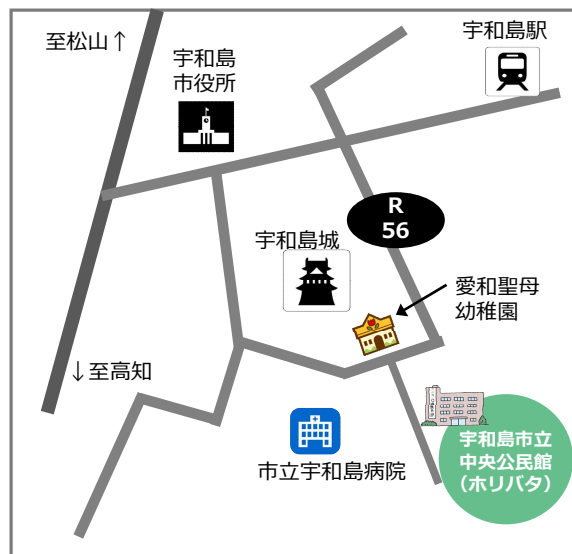
を行っています。

■リーフレット04に寄せて

早いもので、事業3年目が終わります。
高校3年生の時にホリバタ事業がスタートした子たちは、早くも大学2年生に。帰省して寄ってくれる度に、成長と時の早さを感じます。
「ホリバタで宇和島市とつながれた気がします」「ホリバタ＝青春」「ホリバタみたいな場所がもっと増えますように」など、今年、利用者の皆さんからもらった言葉を大切に、来年度も頑張ります。どうぞよろしくお願いします。

利用者数の推移（延べ人数）

R2年度 5,115人
R3年度 5,764人
R4年度 9,477人（R5年3月15日時点）



■Contact

宇和島市立中央公民館（ホリバタ）

〒798-0050

愛媛県宇和島市堀端町1-25

TEL 0895-49-7112

Mail u-chuuo-ph@city.uwajima.lg.jp

休館日 月曜日・祝日

（月曜日が祝日の場合は火曜日も休館）



* 公民館屋上から仰ぐ天守

青少年市民協働センター事業
x Horibata

04



2023年3月発行
宇和島市立中央公民館

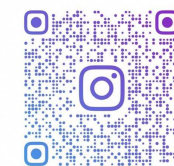


ひとりひとりの 使い方に 寄り添うホリバタ

おしゃべりも
勉強も
飲食も
休憩も
自由自在

ひとりでも、グループでも
気軽に、気の向くままに

登録団体なら
ホリバタの部屋利用も



HORIBATA.CHUOKOUMINKAN



LINE@540bfxrh

令和4（2022）年度 ホリバタの足あと

初めて休館することなく送れた1年間、「ホリバタらしさ」を模索し続けた3年目の記録。



ライフキャリアデザイントーク

宇和島にゆかりのあるゲストを招いて、仕事や人生などキャリアについて聴くトークセッション。「君の心に火を灯す！」がテーマです。参加者満足度は、平均96点。今年度もさまざまな分野のプロフェッショナルが登壇してくれました！

7月 トーク6：徳山 大毅 氏 （アカウントプランナー・クリエイティブプロデューサー） 徳山さんが関わられたTVCMなどの映像作品を上映し、その制作過程や、どんな分野の人が関わっているのかなど、広告業界のお仕事について伺いました。また、ブランディングと地域活性化というテーマで、宇和島らしさや自分らしさについて考察したトークが繰り広げられました。
10月 トーク7：木下 裕巳 氏 （海上保安庁 第六管区海上保安本部海洋情報部長） 木下部長は航海の安全や海洋権益を守る海洋調査のスペシャリスト。150年続く海図の歴史やその作成方法、災害復旧業務など、“海を愛し 海を守る”仕事を詳しく知ることができました。しかも、今回のために特別に作成した巻物地図をみんなで鑑賞。地図・海図の見方が変わった1日でした。
1月 トーク8：松浦 靖 氏 （演出家・映像ディレクター） 20年以上の海外生活と各国での制作経験をいかしたグローバルな視点での企画・演出を得意としている松浦さん。撮影現場の出来事や時代背景など、ここでしか聞けない解説を交えて関わられたTVCMを鑑賞しました。また、宇和島でも上映された舞台「一粒萬倍」への思いについても伺いました。
1月 トーク9：二宮 新治 氏 他4人 （Uターン・移住した30代たち） 柑橘ソムリエ、パティシエ、水産会社の勤務、柑橘農家、イベントプランナーと多彩な5人が、仕事観、宇和島での生活、Uターンや移住の考えなどを語った回。ライフキャリアデザイントーク初の持ち込み企画であり、ホストもゲストも実行委員会が担いました。

参加者の感想

「自分の進路を考える時期にあり、将来について不安に思うことが増える中で、より楽しい未来へのヒントを得られました。ありがとうございました」

うわじま∞あいだいプロジェクト（8月～1月）

各分野のプロフェッショナルから、仕事や宇和島のことを深く学び、「地域」と「課題」について学ぶプロジェクト。市内の中高生と愛媛大学生がチームを組んで活動しました！一緒にフィールドワーク出かけたり、ワークショップを行うなど、年齢や学校に関係なく交流するホリバタらしさが満載な、全7回の講座です。

9月 講座（テーマ：魚） 養殖や加工、環境問題、食の安全性などの水産業を取り巻く状況や、ブランディング・高付加価値化などの戦略まで、広く学びました。参加者からは「魚への愛、人への愛、地域への愛がみられました。」という感想がありました。
10月 講座（イノベティブな新技術、起業） フィールドワークで企業を訪問し、企画や評価、品質管理などで実際にICTが活用されている現場を見学。ベトナムと東京と宇和島の3箇所をリモートでつなぎ、海外での業務やグローバル化について意見交換もしました。
10月 講座（テーマ：歴史文化） 伊達博物館を解説付きで見学したあと、宇和島伊達家第13代ご当主の案内で天赦園を散策。「伝統ある歴史をどう残していくか、変化し続ける時代にどう対応していくか、考えていきたい。」という感想がありました。
11月 講座（テーマ：柑橘） 午前中は、柑橘の共選場と販売施設のフィールドワークを行いました。午後は、生産者、流通販売事業者、加工業者といった各講師から、それぞれの立場や視点で講義を受け、柑橘産業を多様な角度から学びました。

参加者の感想
「体験活動がメインで、五感を使って宇和島を捉えることができました」「まちへの期待が高まりました」



インフルエンサーアカデミー 写真学科（2月）

宇和島出身のフォトグラファー水野謙治さんを講師に、写真撮影の基礎、テーマに沿った撮り方などを学んだ、座学と実践の2日間。

（参加者の作品）

国際的なフォトコンペで多数の受賞歴がある講師の水野さん。
見る人に感動を与え、「飾ってもらえる1枚」を生み出すプロのお仕事とは？
講義でその秘訣に迫りつつ実践では「ホリバタの映えスポット」をテーマに、それぞれが個性あふれる作品を撮りました。
ひとりひとりが「表現者」として、楽しんだ講座となりました。

東京大学金曜特別講座（夏・冬学期）

東京大学からのライブ配信を、全国の高校生たちがオンライン受講するこの講座。全国で唯一、学校以外でホリバタが配信を受けて「知との出逢い」に取り組んでいます。
この講座をきっかけに、その分野の進学を決めた人もいます！

（各学期の回数、期間、講義内容など）	
夏	全13講座（5月～7月に開講） ・不思議の国ロシアを考える ・「働かない」働きアリの進化生態学 ・違いと不平等：ジェンダーに着目して ほか
冬	全13講座（10月～2月に開講） ・経済学の功罪 ・人間と人工知能の協働 ・気候モデルで探る過去現在未来の地球環境 ほか

（参加者の感想）

・考えるおもしろさがある
・高校生の質問も聞けて刺激を受けました。わかりやすい
・一度行くと、常連になります。

未来のわくわく架橋事業 (7月～11月)

わくわくエンジンを引き出す
プログラムで、子どもたちの
“やってみたい”を応援！
宇和島青年会議所と共催で、
取り組みました。



STEP1 「講演会、パネルディスカッション」
「自分を知る」からはじめるキャリア教育の大切さを学びました。

STEP2 「大人サポーター養成講座」
地域の大人たちが子どもたちの「やってみたい（＝わくわくエンジン）」を引き出すノウハウを学びました。

STEP3、4 「子どもワークショップ、グループワーク」
多様な立場の大人サポーターが子どもたちと対話し、自分だけの「やってみたい」を引き出しました。

STEP5「発表会」
子どもたちが起こしたアクションの発表会。子どもたちの「やってみたい」を応援してきた地域の動きを共有しました。

3中学校合同生徒会活動 クリスマスデコレーション（12月）

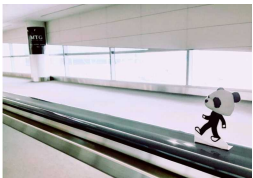
合同生徒会活動として、今年度も館内を彩ってくれました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、一部の参加&飾り付けをリレーする方法をとりました。ホリバタの風物詩として、また来季もコラボしましょう。



Information

パンダ、ありがとう

利用者が（竹の成長のように）折れずしなやか成長し、（竹の地下茎のように）つながり、所属や世代を越えて関わる、そのイメージから、竹が好きな「パンダ」をキャラクターにしてみました。ホリバタ創世記の3年を支え、今、その役目を終えようとしています。この3年間、いろんなところに出没し、活躍してくれました。愛してくれた皆さん、どうもありがとうございました！



「世界を広げる」 ホリバタでの活動

県内外のインターン生を受け入れ

ホリバタカフェ（8月）

市役所ヘインターンシップで来た大学生を、2日間、受け入れました。ホリバタ事業や公民館の説明のあと、早速、企画の準備、運営に着手。市内NPOの協力の下、ホリバタ世代（中学生～39歳）や、小学生の交流の場として「ホリバタカフェ」を開催しました。



防災ゲームの実施、大学生と高校生が語るイベントもあり、一人ひとり熱心に取り組んでくれました。今後も、引き続き、インターンシップなどで大学生と積極的に関わっていきます。

大学の仲間とともに、宇和島での「やりたい！」を実現

いぬねこ教室（12月）

8月にインターンシップできた広島的大学生（宇和島市出身）が「大学で行っている活動をホリバタでやりたい」と、メンバーを連れて、ホリバタに凱旋！保護動物や、犬猫との接し方理解する講座を実施しました。

若者のチャレンジを応援するホリバタとして、嬉しい提案企画でした。こうした持ち込み企画の相談も増えており、一緒に考えたいと思っています。



Report

受付の位置を移動しました

受付の場所が奥まっていたため、利用者の方にとっては判りづらく、スタッフにとっては案内しづらい状況がありました。そこで、館内の動線やスムーズな応対などを考えて、2月末に受付を入口横に移動させました。



来館時と退館時、つまり利用者のみなさんとの最初と最後の接点として大事な受付。利用者の皆さんが来てくれるのを、いつも待っています。

大学生と高校生の壁を超えて

ホリバタプロジェクト（7月）

今年度も、主権者教育を学ぶ大学生がホリバタに来てくれました。堅いテーマを、ゆるく楽しんで大学生と高校生と一緒に考える、そんな企画です。企画とは別に、大学1年生が高校生に尋ねられて勉強を教える場面もあり、学生の力を感じました！



ボランティア活動の場に

花いっぱい運動（11月）

ボランティアとして、ホリバタに関わってくれる高校生もいます。花壇の整備後は、館内でゲームをしたりお菓子を食べたり、リラックスして過ごすのがホリバタ流です。いつも丁寧に作業してくれてありがとう。



木彫りの牛鬼が、唯一無二のアート作品に

絵付けの牛鬼展示（11月～12月）

絵付けの牛鬼の展示場所に、ホリバタも選ばれ、利用者の皆さんが絵付けした牛鬼も飾られました。個性あふれる色とりどりの牛鬼が並んだショーケースの美しさが、来館の皆さんに好評でした。



スタッフ's Eyes

身近な存在でありたい



振り返ると、今年度も、進路相談を受けたり、小論文の添削をしたり、学校生活の悩みや、部活や体育祭、将来の話を聴いたり、いろいろありました。

スタッフは、利用者の皆さんと、まだまだコミュニケーションを取りたいと思っています。挨拶だけでなく、何気ない会話をしたり時には相談に乗ったりと、身近な存在でありたいです。